

CSV の中長期目標を策定 環境・健康・社会が柱



▲コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングスのカリン・ドラガン社長

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス（CCBJH）は19年に、CSV（共創価値）の24年までの中長期目標を策定した。

これは、TCCC（ザ コカ・コーラカンパニー）がグローバルで掲げる ESG（環境・社会・ガバナンス）目標をベースに日本の市場環境を加味して CCBJH グループのコミットメントを明示したもの。

環境・健康・コミュニティの3つを優先課題と位置づけ、環境の課題には、日本コカ・コーラが19年7月に発表した環境目標「World Without Waste（廃棄物ゼロ社会）」に対するコミットメントも含まれている。

多様性の尊重・地域社会・資源の3つのプラットフォーム（重点分野）と9つの重点分野からなるコカ・コーラシステムのサステナビリティフレームワークの中で優先課題に掲げるのが容器の取り組みとなる。

日本のコカ・コーラシステムは、使用済みペットボトル（PET）をPETとして再生する「ボトル to ボトル」の推進などを通じ30年までにすべてのPETを100%サステナブル素材に切り替えることなどを骨子とした「容器の2030年ビジョン」の実現に取り組んでいる。

多様性の尊重は、ジェンダー・障がい者支援・LGBTQ が柱。

ジェンダーについては、21年1月に女性管理職比率6%を前倒しで達成し30年までに女性管理職比率20%という目標に更新した。

障がい者支援では、CCBJH グループのひとつ

であるコカ・コーラ ボトラーズジャパンベネフィット（CCBJB）が、障がい者の雇用機会の確保を行う企業として「特例子会社」として認定。これにより、さらなる障がい者の活躍を推進するとともに積極的な雇用の創出に力を注いでいる。

LGBTQ 対応では、多様な社員、社内の性的マイノリティに対し平等な機会を提供するため、各種規程における配偶者の定義を見直した。異性婚・同性婚を問わず配偶者としての取り扱いを明確にしたことで多様な社員に対して平等な機会を提供が可能にした。

地域社会への取り組みでは、広島工場の見学施設が完成し、えびの工場の緑化への取り組みが内閣総理大臣賞を受賞するなど活気ある地域づくりに力を入れている。

CSV は社業を通じた直接的 CSV と社業領域での間接的 CSV に大別される。

直接的な CSV は製品販売や自販機サービスなど事業を通じた社会貢献を意味し、25年までにすべての主要ブランドでノーカロリー・低カロリー製品をラインアップすることや、トクホと機能性表示食品の販売数量を15年比で3倍にすることなどを目標に掲げる。

一方、間接的な CSV としては、清掃活動や水資源保護の推進などがある。

水資源保護とは製品の製造に使用した水と同等量の水を自然に還す取り組みのことで、既に16年に100%以上の還元を達成し、18年には277%に達した。CSV 目標では200%の維持を目指して工場近辺の水源や流域に注力して推進していく。